

関連年表

大正 10年 (1921)	このころ碧海郡依佐美村が対欧無線電信局の候補地となる
大正 14年 (1925) 10月	半官半民の国策会社「日本無線電信(株)」設立
大正 14年 (1925) 12月	逓信省が依佐美村に送信所、三重県海蔵村に受信所を建設することを命令する
昭和 2年 (1927) 2月	依佐美送信所建設に着手
昭和 3年 (1928) 1月	鉄塔工事に着手
昭和 4年 (1929) 3月	日本無線電信(株) 依佐美送信所を竣工
昭和 4年 (1929) 4月	ワルシャワへの送信業務開始
昭和 11年 (1936) 11月	短波需要の増大により短波専用局舎を新設
昭和 13年 (1938) 3月	日本無線電信(株)は国際電話(株)を合併し、「国際電気通信(株)」となる
昭和 22年 (1947) 3月	GHQから鉄塔の解体命令、国際電気通信(株)は解散
昭和 25年 (1950) 4月	依佐美送信所を在日米国海軍が接收
昭和 25年 (1950) 6月	国際電気通信(株)の第2会社として「電気興業(株)」が設立され、保守運用を担当
昭和 27年 (1952) 5月	電気興業(株)が依佐美出張所を開設
昭和 27年 (1952) 7月	米国海軍が依佐美送信所の使用開始
昭和 27年 (1952) 9月	米国海軍依佐美送信所開所式
平成 5年 (1993) 8月	依佐美送信所の送信を停止
平成 6年 (1994) 8月	依佐美送信所は日本に返還される
平成 9年 (1997) 3月	鉄塔の撤去が終わる
平成 18年 (2006) 4月	依佐美送信所本館・送信局舎が解体される
平成 19年 (2007) 4月	フローラルガーデンよさみ内に依佐美送信所記念館が開館

各種認定等

平成 19年 (2007) 8月	高周波発電機が(社)日本機械学会「機械遺産」に認定される
平成 20年 (2008) 10月	送信装置一式(9件)が「重要科学技術史資料(未来技術遺産)」に登録される
平成 20年 (2008) 11月	依佐美送信所が「IEEEマイルストーン」に認定される
平成 21年 (2009) 2月	旧依佐美送信所関連遺産(10点)が「近代化産業遺産」に認定される
平成 24年 (2012) 3月	「依佐美送信所と超長波による初の欧州との無線通信」が(社)電気学会「でんきの礎」に選定される
平成 29年 (2017) 9月	依佐美送信所が「電子情報通信学会(IEICE)マイルストーン」に認定される



依佐美送信所記念館

〒448-0812 愛知県刈谷市高須町石山2番地1
 フローラルガーデンよさみ内
 TEL 0566-29-4330

開館時間 午前9時から午後5時まで
 休館日 月曜日(祝日の場合は翌日)・年末年始

刈谷市文化観光課 TEL 0566-62-1037

交通機関

刈谷駅南口よりタクシー約7分
 刈谷駅南口より刈谷市公共施設連絡バス(無料)
 小垣江駅東口行約25分フローラルガーデンよさみ下車

よ さ み そ う し ん じ ょ き ね ん かん 依佐美送信所記念館



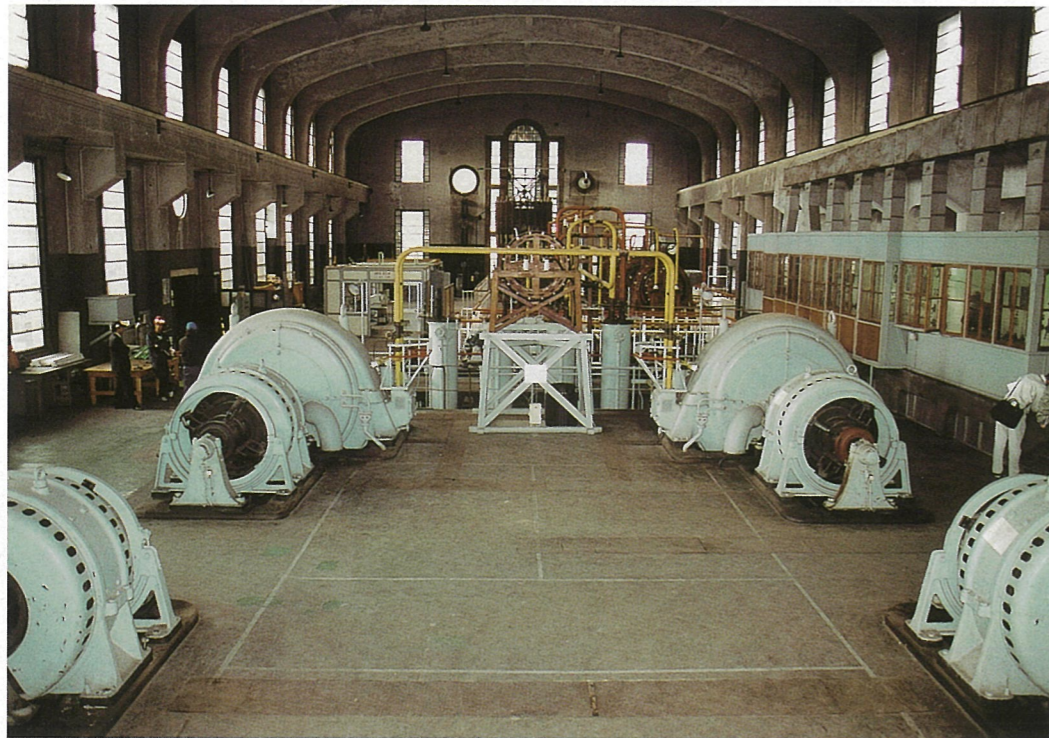
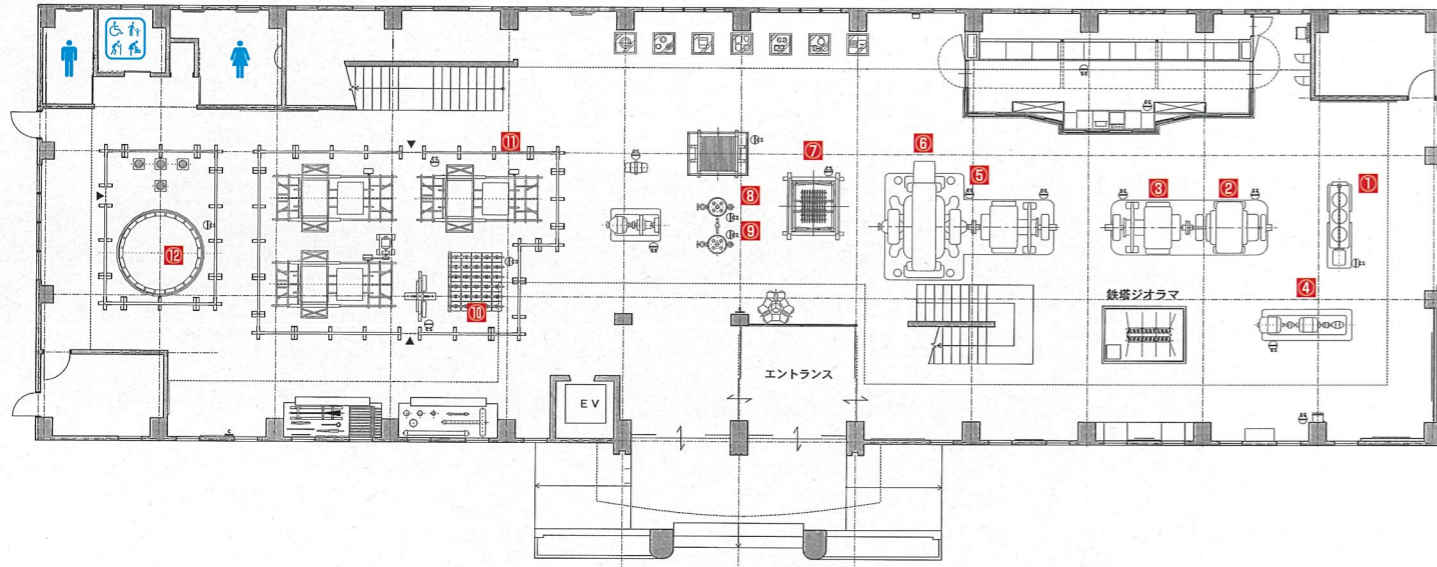
依佐美送信所は昭和4年に建設された、当時としては世界最大級の無線送信施設で、長波によるヨーロッパへの送信を日本で初めて行いました。これにより当時の外交や通商は飛躍的に進展しました。その後短波通信設備も強化され、長・短波ともに日本の国際通信施設としての重要な役割を果たしました。

第2次世界大戦後の在日米国海軍による接收、平成6年の日本への返還を経て、その役割を終えた送信所は平成18年に解体されました。

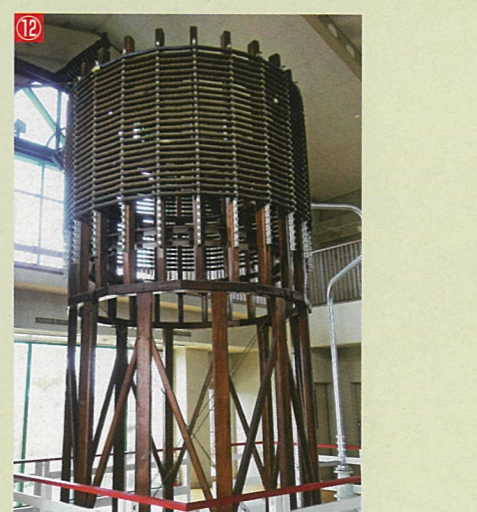
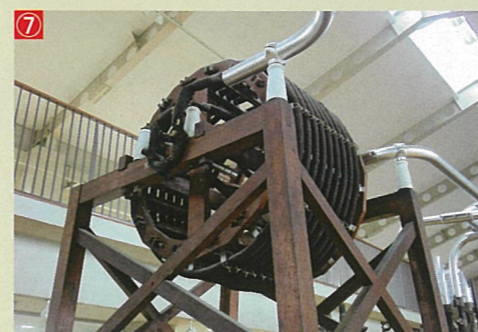
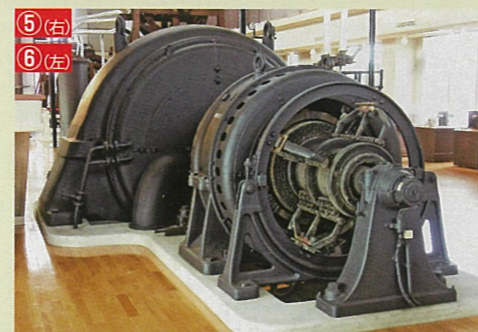
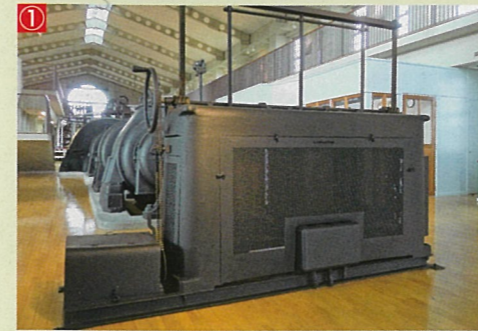
この送信所の産業遺産としての価値を評価し、長波用送信装置および関係資料を保存し後世に伝えていくことを目的として、ここに依佐美送信所記念館を建設しました。



記念館機器配置図



解体前の送信室内



① 水抵抗器
主誘導電動機の回転子側に付加して、始動時の大電流を抑制し、電動機を安全に始動して定常状態にする装置。

② 主誘導電動機
この主誘導電動機と主直流発電機と主直流電動機でワードレオナード方式を構成しており、電動機は主直流発電機を一定回転数で駆動する。

③ 主直流発電機
主誘導電動機が主直流発電機の電機子を回転して、界磁電流を流すと電機子に直流電圧が発生する。

④ 主直流機励磁用電動発電機
主直流発電機および主直流電動機の励磁用電動発電機である。誘導電動機に直流発電機2基が直結されて構成している。

⑤ 主直流電動機
この直流電動機が直接、高周波発電機を駆動する。電機子に電圧を加えて、界磁電流を流すとトルクが発生して、電動機は回転する。

⑥ 高周波発電機
送信所の中で最も重要な部分。1,360rpmで5.814kHzの周波数を発生する。構造は固定子の内側中央に円周に沿って誘導子を励磁する直流巻線があり、その両側に出力巻線が配置されている。

⑦ 高周波チョークコイル(1)
このコイルは高周波電流が高周波発電機に干渉するのを防ぐためのもの。木枠にリッツ線(細いエナメル銅線の撚線)を円筒状に巻いてある。

⑧ 周波数三倍器(トリプラ)
可飽和リアクトルが発生する飽和電圧に含まれる第3高調波を利用して入力周波数を3倍にする。高周波発電機より発生した5.814kHzを送信電波に必要な3倍の17.442kHzにする。

⑨ 信号用磁気誘導変更器
発射電波をモールス信号に従って断続させる装置。特殊な鉄心に信号用コイルと直流用コイルが巻かれた変圧器である。

⑩ コンデンサ
コイルと組み合わせて所定の周波数に共振させるためのもの。

⑪ バリオメータ型高周波コイル
コンデンサと組み合わせて所定の周波数に共振させるためのもの。最適の共振状態を得るために微調整することができる。

⑫ ローディングコイル
17.442kHzにアンテナを同調させるために設けられたコイル。直径3mの円筒状の木枠にリッツ線が24回巻かれている。